

短期留学生アンケート調査から、短期留学プログラムの拡充を考える

交換留学担当専任職員

亀井千里

1. はじめに

名古屋大学・短期交換留学受入れプログラム (Nagoya University Program for Academic Exchange - 以下、NUPACE) は、1996年より受入れが開始され、本年度で15周年を迎える。年間春・秋の2回、短期留学生を受け入れているが、初年度の1996年度の年間受入れ数23名から、昨年度は89名までに拡大している。本年度は特に3月11日の東北・関東大震災の影響をかなり受け、2011年春の受入れ予定47名が22名に半減したものの、2011年秋の受入れは、84名を予定しており、うち49名は自費参加者である。文部科学省の「留学交流支援制度(短期受入れ)」による奨学金割当数があまり増加しない中で、NUPACEへの参加を希望する留学生が年毎に増加しているのは明らかである。

筆者は2010年9月に採用され、留学生センター短期留学室で交換留学担当専任職員として半年間教務関係及び短期留学室の最初の相談窓口として事務業務を担ってきた。また、本職員に採用される前の2006-2007年に、英国プリストル大学修士課程に留学して、同大での修士プログラムを経験している。従って、専任職員と元留学経験者の視点から、短期留学生アンケート調査を考察する。海外の留学生にとってなぜNUPACEは魅力的なプログラムなのか、短期留学生アンケート調査の結果を通して報告したい。

2. 短期留学生からの評価

1997年春学期以降NUPACEでは、各学期、帰国者に対してプログラム全体のアンケート調査を行っている。外部評価報告書(1998-2002)年版、及び(2003-2006)年版で、その詳細を確認できる。本稿では、上記報告書以降の2007年秋から2011年春帰国者を対象にした短期留学生へのアンケート結果を基に、過去のアンケート調査報告と比較しながら短期留学生からの評価を分析したものである。補足として、2010年秋のデー

タは、プログラムを予定通り修了した学生25名、その他東北・関東大震災の影響でプログラム半ばにして止むを得ず断念し帰国した学生14名を含むことになるが、後者の留学生は混乱の中帰国したため、残念なことにアンケート調査の回収に至っていない場合が多い。

本アンケート調査は、留学生の活発で率直な意見をきくために匿名にしている。それ故、学部や、学生身分(学部生/大学院生)などの条件毎に、傾向を把握したり特定化できないのが少々残念ではある。留学生の満足度を評価する項目の他、記述方式の質問からなり、表Iは、短期留学生のプログラム全体の満足度を表したものである。満足度は7段階であり、(1:極めて不満足~7:極めて満足)として評価してもらった。

渡日前NUPACE情報の取得度だが、他の評価項目に比べ、受入れ時期によって大きく変動がある。前年と比較すると2010年秋は1ポイント以上上昇した。渡日前情報の提供は何年も前から行われているので、2010年秋になぜ評価が急速に向上したかについては憶測の域を越えないが、2010年秋受入れ時よりチューター学生による空港・駅出迎え支援をやめたため、自力で空港・駅から名古屋大学に到着するための情報の充実を図った。このことが結果的に、NUPACE学生に渡日前情報を丁寧に読ませることになった可能性がある。毎年2月上旬に、協定大学にNUPACEパンフレットを郵送し、Web情報も随時更新しており、協定大学に必要情報を送っているつもりだが、留学生の問合せ数と質問内容をみる限り、学生に情報が十分に伝わっていないことを痛感する。この点をどのように今後改善すべきかが課題である。2008年秋受入れと2009年秋受入れの評価が低くなってしまっていることは、留学生との通信を担当された教員が、この情報提供の時期に交代せざるを得なかったことが影響しているかもしれない。

コンピューター利用環境の満足度は、平均より高い数値ではあるが、プリンターについては多くの苦情がオフィスにも寄せられ、アンケートの回答にも多かつ

表Ⅰ 短期留学生による短期留学プログラム全体の満足度評価（数値比較項目）

（ただし、*：項目6及び7は、満足度評価とは異なる）

	質問項目	07	08	08	09	09	10	10	平均
	回答者数	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1	渡日前 NUPACE 情報の取得度	4.8	4.1	3.4	4.1	3.8	4.6	5.7	4.4
2	短期留学プログラム全体の満足度	5.2	5.8	5.8	6.1	5.9	5.8	5.8	5.8
3	日本語授業の満足度	5.1	5.5	5.3	6.3	5.9	5.2	5.1	5.5
4	共通プログラムの満足度	4.3	5.0	5.3	5.1	4.7	5.0	5.5	5.0
5	専門プログラムの満足度	4.2	4.4	4.1	4.5	4.7	4.8	5.3	4.6
6	英語による授業の意義*	4.7	5.0	5.9	4.7	5.1	5.2	5.3	5.1
7	日本語共通・専門科目の希望*	5.2	4.2	4.4	4.5	4.6	4.7	4.5	4.6
8	大学の教室や教育機材の満足度	5.4	5.7	5.9	6.5	5.8	6.1	6.0	5.9
9	中央図書館・学部図書室の満足度	4.5	5.5	5.9	6.1	6.1	5.7	5.8	5.7
10	コンピューター利用環境の満足度	4.1	5.2	5.5	5.3	6.1	5.1	5.0	5.2
11	指導教員のサポートへの満足度	3.9	4.2	5.0	5.4	4.8	4.9	6.0	4.9
12-1	宿舎の満足度（レジデンス）	4.0	4.4	5.1	6.2	4.9	6.3	5.5	5.2
12-2	宿舎の満足度（国際嚶鳴館）	-	5.8	6.3	5.9	6.0	6.1	5.6	6.0
13	短期留学室の対応への満足度	6.5	6.6	6.8	6.7	6.7	6.5	6.6	6.6
14	事務部門への対応の満足度	6.7	6.5	6.7	6.4	6.4	6.4	6.2	6.5

た。改善に大いに取り組むべきではあるが、留学生センターのコンピューター環境を、名古屋大学の情報基盤センター／情報メディアセンターとは別個のシステムとして構築していることが背景にある。最近になって、情報基盤センター／情報メディアセンターの一部のサテライトラボが、日英両用の Windows XP OS に変更されてきたが、留学生センターでは5-6年前より、ファイルサーバーによって、多言語版 Windows XP として Window Vista の環境を構築しており、利便性ははるかに高い。しかし、ファイルサーバーを通したプリンター管理のため、容量の大きなファイルの印刷時に、問題が生じやすくなっている。根本的な改善には、多額の費用がかかるため、留学生センターで独自にシステムを持つことの限界にきている可能性がある。また、システムの問題とは別に、プリンターにトラブルがあった時の対応及び復旧の体制に、改善すべき問題があるようである。

教育プログラムに関しては、2010年秋専門プログラムの満足度が前年と比較するとかなり高くなったものの、過去4年間を平均し、他の項目と比較すると満足度はまだ低い結果である。2003-2006年外部評価報告書でも指摘しているように、ある専門分野に特化したプログラムではなく、様々な分野の学生を受け入れ、受講できるように、分野を広くカバーした概論的な講

義が多いことが大きな要因と考えられる。しかし、この数年に、国際開発分野、法学分野に加えて、環境科学分野で英語による大学院講義が開放されるようになり、一部の専門講義の内容充実が図られている。また、日本語能力のある学生は、日本語による授業の受講を認められ、専門分野を補っている。さらに、開講講義で満足できない NUPACE 学生に対して、交換留学実施委員会で認めている個別勉強指導（Guided Independent Study-GIS）制度によって、指導教員や周辺の教員の支援で個別に科目を設定し、個人指導し、単位化している。これらの総合的な取り組みの結果として、専門科目の評価が大きく向上した可能性がある。

指導教員のサポートへの満足度の平均値が、他の項目に比べると若干低いですが、この1年は大きく向上してきている。指導教員に対する評価は、時により極端に良い評価と悪い評価に分かれてしまい、時期によっても大きく変動する。しかし、2010年秋の本アンケートの自由記述項目には以下の通りのコメントがあった。

「学部の指導教員は進路について一番悩み時に相談していただき、とても助けられ、いつでもありがたいです。GIS 論文の指導教員はほかの授業の先生にし、親切に指導していただき、とても勉強になり、ありがとうございました」

（2010年秋 NUPACE アンケート調査 原文のまま引用）

このように、指導教員がNUPACEをサポートして下さり、大きな成果をあげていることが感じられる。

3. 今後の課題と抱負

本アンケート調査は、約14年間実施しており、NUPACE全体の発展に大きく寄与してきた。その一方で、時代の変遷とともに、アンケートの項目や内容を見直すべき段階にきたと考えられる。例えば、アンケート項目の一つ「共通プログラム」について定義が曖昧であり、NUPACEシラバスにも共通科目として明確に記載されていないため、留学生がアンケート項目の意図を認識せずに回答している可能性もある。専門科目についても若干そのきらいがあり、NUPACE教育プログラムにおける専門と解釈できるが、派遣元大学での専門なのか、あるいは名古屋大学所属上の専門なのか、少々分かりにくいようだ。NUPACEは、英語講義を受講する学生の受入れを中心に発足し発展してきているが、短期留学生のうち日本語能力検定試験1級保持者は、名古屋大学正規留学生を対象に開講されている一般の授業を履修することが可能であり、日本語による科目を履修する学生が増加している。さらに最近では、個別勉強指導(GIS)を取る留学生も増加しており、専門科目としてひとくくりにすることに少し無理が出てきている。大学院生の参加も増加しているので、学部生とは区分した方がよいように思われる。

アンケートとは別に、筆者の今後の抱負として、短期留学プログラムの目的と意義の一つである「長期留学の動機づけ」となるように、短期留学生が再び正規の留学生として名古屋大学に戻ってくれるため

にも、短期留学後の追跡調査をしたいと考えている。NUPACEオフィスは、本学に戻ってきて長期留学をするための奨学金の問い合わせをよく受けるが、日本の物価高を考えると自費による長期留学は極めて難しく、正規留学を断念している短期留学生が多い。それでも、何らかの形で日本に戻ってくる留学生が1割近くいる。また、短期留学中に将来の伴侶と出逢い、家族を連れてNUPACEを再訪問する短期留学修了者(同窓生)を見ると、短期留学が人生にいかに関係しているかと実感する。世界中に散らばるこの同窓生のネットワークは大変貴重であり、名古屋大学にとっても、NUPACE同窓生にとっても相互に活用できるようなネットワークシステムの構築を目指したい。

また、筆者の経験として、大学院留学中、比較的個人で作業のできるレポートやプレゼンテーション等はまだまだだったが、討論となると英国人や他の留学生に圧倒され発言する機会をなかなか掴めずにいた。従って、各部署の留学を希望する日本人学生のために、異文化・言語を持つ留学生と交流し、名古屋大学在学中から異文化の環境や雰囲気を経験させることが、留学への敷居を低くし、留学への準備に活用することができると思われる。

現在、派遣学生と交換留学生との間の交流の機会として、ヘルプデスク、ランゲージシャワー、コーヒーアワー、チューター制度、留学フェア、留学の扉等、様々な取り組みが学内で行われている。留学生の派遣元大学に留学する日本人学生もいるので、お互いに積極的に研鑽し合い、相互に発展することを期待したい。